

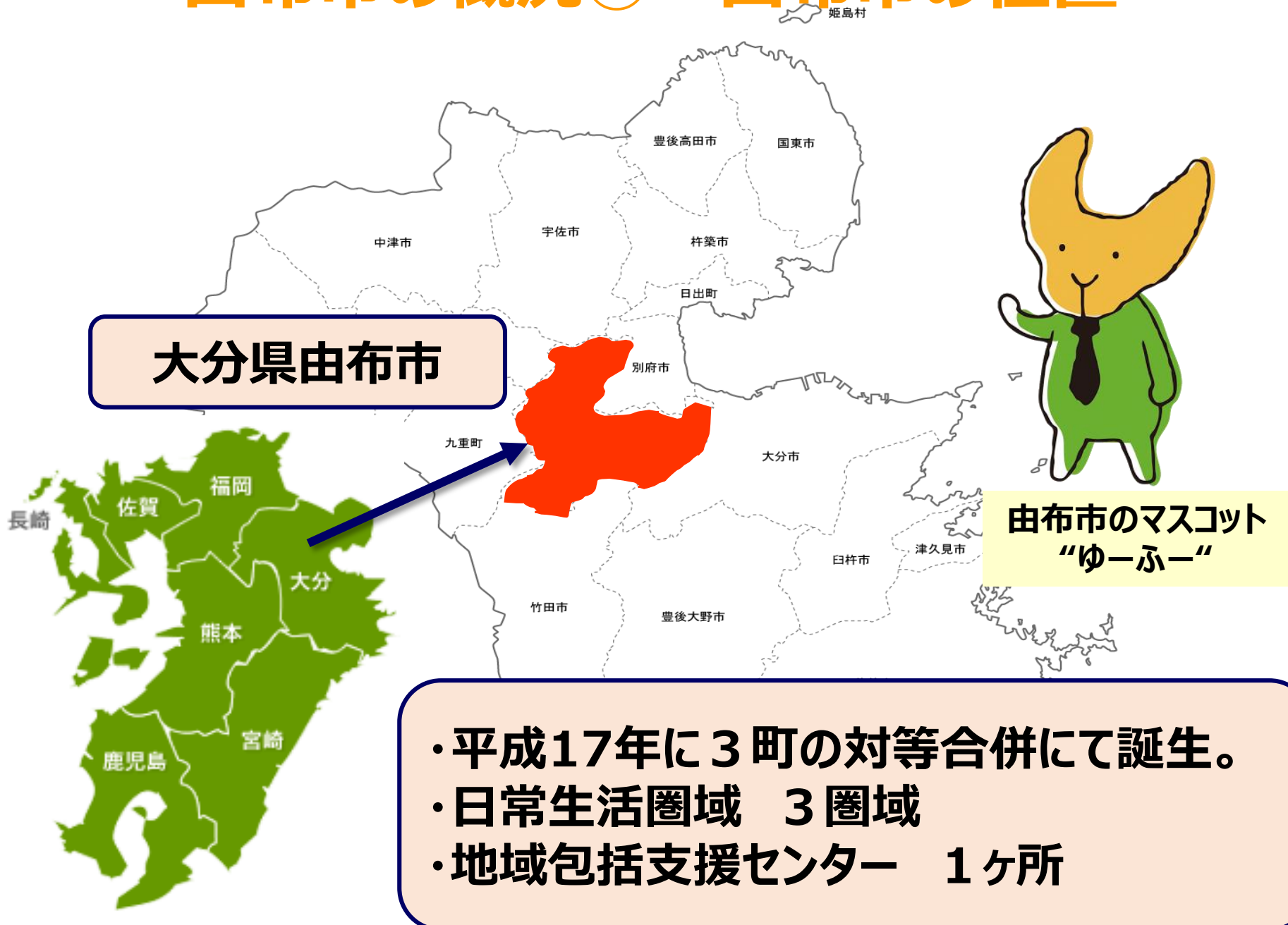


認知症の人にやさしい街づくり ～由布市版～



由布市社会福祉協議会

由布市の概況① – 由布市の位置

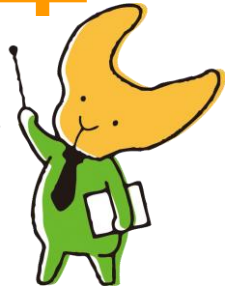


大分県由布市

由布市のマスコット
“ゆーふー”

- ・平成17年に3町の対等合併にて誕生。
- ・日常生活圏域 3圏域
- ・地域包括支援センター 1ヶ所

由布市の概況② - 人口構成と高齢化率



大分大学医学部

湯布院町 33.3%



観光地 由布院

挾間町 26.7%

由布市の年齢別人口

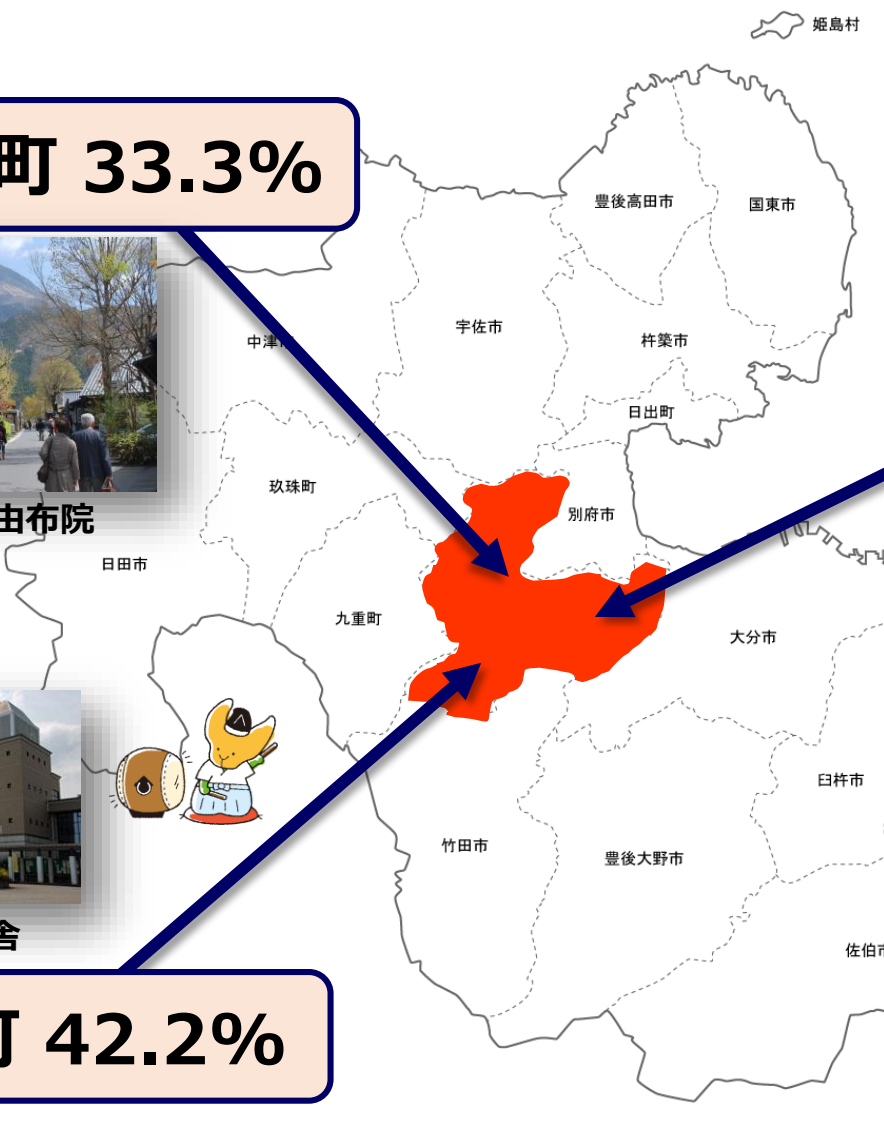
総人口	34,931人
0 ~ 14歳	4,367人
15 ~ 64歳	19,309人
65歳以上	11,255人

平成29年4月末現在

庄内町 42.2%



庄内庁舎



由布市の認知症施策の方針

認知症の人とその家族が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができる。



1) 標準的な認知症ケアパスの作成・普及

- ① 由布市認知症あんしんガイド（地域ケアパス）
- ② 今の私を伝えるあんしんノート（個人ケアパス）

3) 地域での生活を支える医療・介護サービスの構築

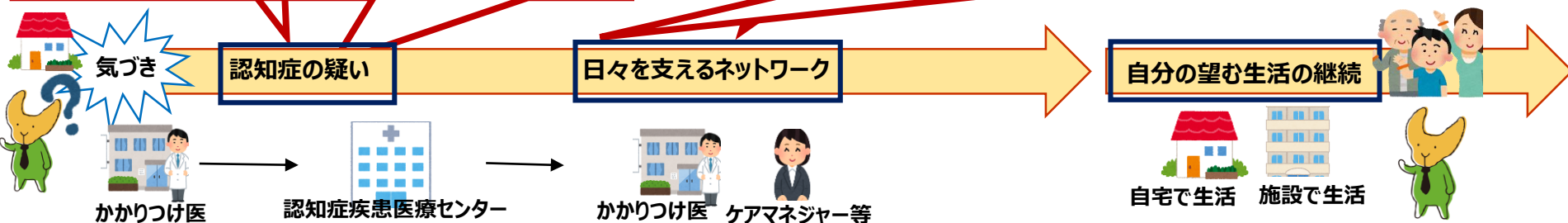
- ① 由布物忘れネットワーク（かかりつけ医を中心とした多職種連携ネットワーク構築）
- ② 由布オレンジネットワーク推進会議（在宅医療連携事業と協働）

2) 早期診断・早期対応

- ① 大分オレンジドクターのフォローアップ研修
- ② 認知症初期集中支援チームの設置
- ③ 認知症疾患医療センターとの連携

4) 若年性認知症の人と家族への支援

- ① オレンジカフェ由布（認知症サポート医が開催）との連携
- ② 若年性認知症コーディネーター（大分県）との連携



5) 地域での日常生活・家族の支援の強化

認知症地域支援推進員の設置（配置先：由布市社会福祉協議会）

地域全体で関心を高め、支える

- ① 認知症サポーターキャラバンの継続実施
○ 教育委員会を通して、小中学校での実施
○ 大分オレンジカンパニーの推進
- ② 由布RUN伴の開催支援
○ 認知症の人でもそうでない人も子供から大人まで参加し、タスキをつなぐ。

当事者・家族を支える

- ① 由布市あんしんネット
高齢者等SOSネットワーク事業
- ② 由布市徘徊模擬訓練
全世代参加型の訓練を年に1回開催
- ③ オレンジカフェの開催支援
市内3ヶ所で地域特性を活かし開催
- ④ 認知症の人と家族の会との連携
つどいへの参加、啓発活動
- ⑤ 成年後見制度
市長申し立ての支援

専門職資源のネットワーク

- ① 由布市認知症コーディネーター養成
市独自でH25～H27年度養成し、32名が登録
- ② 由布オレンジの会
（認知症地域活動支援ボランティア事業）
地域活動を行なう意欲のある人を登録し、
由布市の地域活動に派遣し、活性化を図る。

地域づくり① 由布物忘れネットワーク (多職種連携の基盤づくり)



由布物忘れネットワークの活動組織

代表 由布市内のかかりつけ医

活動 年4回、多職種連携の研修会を開催

※地域の仲間と一緒に同じ場で同じ内容を学ぶことで共有できる



由布オレンジネットワーク推進会議



アイデア満載、笑い満載の会議

医師、大学教員、由布市行政、中部保健所長、地域包括支援センター、老施協会長、認知症看護認定看護師、医療職、介護職、認知症地域支援推進員など15名程度で構成

【これまでの主な活動内容】

- ① 由布物忘れネットワーク研修会の企画・調整
- ② 由布市認知症コーディネーター育成研修の企画・運営
- ③ 徘徊模擬訓練の企画・運営
- ④ 由布市あんしんネットの構築に向けた検討

地域づくり②タイムリーな多機関連携 (緊急事例検討会)



前頭側頭型認知症の70代、男性 Sさんの事例を通して...

本人の思い 『(元々運動が好きな人で) 歩きたい!』

妻の思い 『できる限り本人の好きなように生活させたい。』

携帯のGPSで本人の位置情報を検索し、電話をかけて迎えに行くことを繰り返す。

警察の思い 『保護が続いているので心配。』

行政・介護支援専門員協会・社会福祉協議会の三者で研修会を開催

今まで、Sさんを見かけたことのある人に『どこで』『何時頃』歩いていたかの情報を共有し、行動範囲のパターンを検討。訪問や送迎等で外出する際に、みんなで見守っていこうと確認しました。



専門職の一員として、地域に暮らす一員として、Sさんの散歩を見守る
→認知症が他人事ではなく、自分が暮らす街の課題として考える

地域づくり③ オレンジカフェ (地域の社会資源の活用)



地域の社会資源を活用して、その地域特性にあった場所・人の力を借りて開催。

オレンジカフェ ゆふいん原っぱ

- ・観光地にある民間のカフェで開催。
- ・会場と送迎はカフェより無償提供
- ・食事もでき、滞在している外国人との交流も。



オレンジカフェ 由布

- ・認知症サポート医が事業所主催で開催
- ・若年性認知症への支援が手厚い
- ・出張型、大学医学部生の参加も



オレンジカフェ ほっと柿の木

- ・野菜直販店舗のカフェスペースで開催
- ・地域の医師が開催をサポート



地域づくり④ 由布市徘徊模擬訓練 (住民主役の啓発活動)



年に1回開催し、区域に住んでいる人へ向けてアウトリーチ

由布市徘徊模擬訓練の特徴

- ① 搜索訓練ではなく声かけ訓練
- ② 専門職や消防団ではなく、地域住民主体の訓練
- ③ 全世代が参加できる工夫（出店や神楽）
- ④ 開催地域の特性を活かしたシナリオ

認知症の人に やさしい街づくり

第3回 由布市徘徊模擬訓練のご案内



- 日時 平成28年7月31日(日) 9:00~12:00
- 場所 由布市庄内町庄内原
- 運営本部 由布市社会福祉協議会 ほのほのプラザ 市民交流室
- 企画・運営：由布オレンジネットワーク推進会議
由布市
由布市社会福祉協議会





地域づくり⑤ 由布RUN伴 (共生の街づくり)

オレンジのTシャツで、3町を西から東へ42.2km、タスキをつなぎながらかけ抜ける。
当事者は**勇気**を、専門職は**連携のきっかけ**を、地域は**認知症を知るきっかけ**に



認知症の人や家族が、地域から切り離されることなく、
安心して地域で生活をするために、
住民、行政、医療機関、介護・福祉機関、教育機関が
一体になって、地域づくりを行なっています。

**認知症の人にやさしい街は、
認知症でない人にとってもやさしい街
だと思います。**

ご清聴ありがとうございました。

